2024年3月3日（日）主日朝礼拝説教

『無駄遣いされた香油』井上隆晶牧師
Ⅰヨハネ4章7～12節、マルコ福音書14章3～11節

❶【香油を注いだマリア】

今日はマリアとユダのお話をしましょう。イエス様が死なれる六日前のことです。イエス様が食事の席に着いていた時に、マリアは300万円以上する高価なナルドの香油を入れた石膏の壺を持って来て、それを割り、香油をすべてイエス様の頭に注ぎかけました。それを見て弟子たちは「**なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。この香油は三百デナリオン以上に売って、貧しい人々に施すことが出来たのに**」（4～5節）といって彼女を厳しくとがめました。これはとても失礼な言葉です。マリアが自分の香油を何に使おうと彼女の自由なのに、弟子たちは他人の持ち物にまで指図しています。またイエス様に対しても失礼です。「イエス様に高価な香油を使うなんて無駄だ」といっているのですから。ここに弟子たちの偽善が現れています。弟子たちはいつも「**計算**」で生きています。人や神を自分の役に立つかどうかで見ており、自分の夢を実現させる為に人もイエス様も利用しようとしているのです。だから貧しい人に施すというのも、彼らの人気を得るためです。しかし、イエス様は「**なぜ、この人を困らせるのか。私に良いことをしてくれたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、私はいつも一緒にいるわけではない。この人はできるかぎりのことをした。**」（6～8節）と言われました。マリアは、なぜこのような行動に出たのでしょう。一つは兄弟ラザロを救って下さったことの感謝であり、もう一つはイエス様がまもなく死なれることを知っていたからだと思います。「**マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた**」（ルカ 10：39）ので、マリアだけがイエス様を理解していたのです。

頭に油を注ぐのは「**任職式**」の行為です。ダビデは生涯で三回油を注がれました。一回目は預言者サムエルによって、二回目と三回目は民によってです。一回目は神がダビデを王として選び立てたしるしであり、二回目と三回目は民がダビデを王として認めた信仰告白の油注ぎです。イエス様はメシア（油注がれた方という意味）ですが、いつ王として即位されたのでしょう。詩編には「**聖なる山シオンで、わたしは自ら、王を即位させた。**」（詩編 2：6）とあります。「**地上の王は構え、…主の<u>油注がれた方</u>（メシア）に逆らうのか。**」（詩編2：2）とも書かれています。イエス様は茨の冠をかぶって十字架の上に即位されました。父なる神、自らが立てたのです。地上の王たちは、神の立てた王を認めず逆らいました。**マリアの油注ぎは、イエス様を王として受け入れたことの告白です。彼女以外、誰もこの方に油を注ぎませんでした。皆さんは神が立てられたこの王を、自分の王として認めますか？**この王に仕え、忠誠を誓いますか？何を捧げますか？この世であなたがキリストに取った態度が、来世であなたの運命を決めるのです。

❷【ユダの罪＝貪欲（偶像崇拝）】

この出来事の後、ユダはイエス様を裏切り、祭司長たちから銀貨 30 枚（90 万円位）を受け取りました。これは奴隷の値段です。ユダはなぜ裏切ったのでしょうか。教父たちは口を揃えて「**貪欲**」のせいであるといっています。昔の祈祷文にこのように書かれています。

●「ユダは貪りの病に暗くなって、義なる審判者であるあなたを、不法なる審判者に売り渡しました。宝に溺れる者よ、このために首を吊った者を見よ。満足することを知らぬ魂よ、先生に対してこのようなことをすることを恐れない者を避けよ。」

貪欲は偶像崇拝と同じです。それは満足できない心であり、すべての恵みを無駄にします。ユダは聖餐をいただいた手を銀貨に伸ばし、洗ってもらった足で祭司長たちの所に走って行きました。せっかくイエス様の近くにいて教えを聞き、たくさんの恵みをもらいながら、彼はそれに満足しませんでした。なぜなら彼は自分の夢（イスラエルの再建）という偶像にしがみつき、それを追いかけていたからです。彼は「**人の子は三日目に復活する**」と、キリストが言われた言葉を本気で聞きませんでした。もし王の言葉としてしっかり聞いていたら自殺することはなかったでしょう。そして自殺という方法で自分の罪の処理しようとしました。ユダはこの世と来世の二つの命を失ったのです。

マリアの信仰はキリスト中心の信仰ですが、ユダの信仰は自分中心の信仰です。マリアの信仰は、神が自分にしてくれた事を喜ぶ信仰ですが、ユダの信仰は、自分の夢がかなえられる事を喜ぶ信仰です。マリアは御言葉に聞き入りましたが、ユダは御言葉を無視しました。マリアはキリストに仕えましたが、ユダは自分の夢に仕えました。マリアはキリストに希望を持ちましたが、ユダはキリストのやり方に絶望したのです。

❸【神の愛の無駄遣い】

この後、イエス様は「**世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。**」（9 節）と言われ、マリアを褒められました。マリアがしたことは、キリストが私たちにしてくれた福音のひな型だったからです。すなわちマリアが石膏の壺を割って、その中の香油を全部注いだように、イエス様は自分の体を十字架の上で壊し、自分の持っている愛と命と赦しを一滴残らず、全ての人に注がれたからです。ユダは「**なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか**」といいましたが、**本当に愛の無駄遣いをされたのはキリストの方です。ユダも１００％の愛で愛されたのです。それでもユダは気がつかず、満足できませんでした。大事なことは、この大きな神の愛に気がつくということではないのでしょうか。**

皆さん、どうでしょう。「神様は何もしてくれない」と思っておられる方がおられたら、聖書の物語を思い出しましょう。父親は二人の息子にすべての財産を分け、兄に「**わたしのものは全部、お前のものだ。**」（ルカ 15：31）と言われました。主

はあなたに言われます。「お前には私のすべてのものを与えた。もう私には何も残っていない。」**神に祝福されるとは、神のものをすべて受けることなのです。**単なる良い言葉ではないのです。**あなたは持っていないのではなく、既に持っているのです。赦しも命も与えられないのではなく、既に与えられたのです。神はご自分の命でさえも、惜しまず、私たちに与えられたのです。あなたは神自らに愛されたのです。あなたは後、まだ何を望むのですか？まだ、満足できないのですか？あなたは神のもっているすべてをもらったのです。**

●シリアの聖イサクは「地獄にいる罪人が、神の愛から切り離されていると想像するのは誤りである。」といっています。聖書に「**陰府に身を横たえようとも、見よ、あなたはそこにいます**」（詩編 139：8）と書いてあるからです。神の愛はあらゆるところに及び、どんな人をも拒否しません。しかし人間の側では神の愛を拒否するのは自由なのです。もし誰かが地獄にいるなら、それは神がその人を閉じ込めたからではなく、その人自身がそこにいることを自分で選んだという事なのです。「地獄の扉は内側から錠がおろされている」といいます。自分で出ることができるのです。

昔、私の母教会である大阪西野田教会の中島恵美子牧師に質問したことがあります。「先生、聖くなるってどういうことですか？」すると牧師は「ますます自分の罪が見えてくること。それと同時に神の恵みが見えてくること。」と言われました。光に近づけば近づくほど、自分の汚れが見えるものですし、同時に神のまばゆい光に自分が包まれるものです。この大きな神の愛に気がつく者となれますように祈ります。